

重点1 毎日の授業の充実

2 学びの一体化

ねらい

学びの一体化では、幼稚園・小学校・中学校が協働して子どもの教育に携わることをめざしています。そこでは、一人一人の学びを連続したものにすることで、「確かな学力」と「健やかな成長」の充実に努めています。

本市のめざす学びの一体化は、小学校6年間、中学校3年間の区切りはそのまま大切にしながら、これまで以上に小・中学校が連携することで、新しい教育力を生み出すことをめざすもので、幼稚園も含め11年間を見通した連携も視野に入れて取組を進めています。

現 状

○ 平成19年度取組

(1) 各中学校区におけるテーマ

中学校区	中学校区の取組テーマ
中部	確かな学力の育成
橋北	豊かな体験を通して、仲間とのつながりを深める～基礎的・基本的な能力の充実～
港	『話す 聴く』態度を身につけていく手だてをさぐり取組を進める／児童・生徒の交流を深める
塩浜	①意欲的に活動する力 ②豊かなコミュニケーション能力
山手	コミュニケーション能力の育成
富田	確かな学力と豊かな人間性を身につけた子どもをめざす
富洲原	校区の連携による基礎学力を身につける指導のあり方
笹川	「子どもを教師をもっと知ろう」～よりスムーズな育ちとつながりを願って～
南	豊かな心を育む仲間づくり～「健やかな成長」をめざして～
三滝	コミュニケーション能力の育成（話す力・聴く力）
大池	仲間とともに主体的に学びあう子どもの育成
朝明	伝え合い、学び合う力を育てるために
保々	保幼小中の連携を通し、15年間の子どもの学びや育ちの具体的な指導のあり方～将来の進路を展望した学力・進路保障を求めて～
常磐	見通しを持った健やかな成長と確かな学力をめざす ～コミュニケーション力の育成～
西陵	子どもたちの実態把握と学力向上
西笹川	本校区の特徴・実態を踏まえ、外国人児童生徒指導・人権教育・生徒指導の推進や基礎学力の定着を図る
三重平	「確かな学力」をつけるために、幼小中連携による「学び」の向上（基礎学力の定着、授業づくり、学習規律の確立、情報交換と交流の推進）
羽津	保幼小中の連携によって、コミュニケーション力の育成を図る
西朝明	子どもにつけたい力の共有化・系統化を図る
桜	「4つの合い」のできる子どもの育成 ～伝え合い、学び合い、認め合い、高め合い～
内部	心豊かにたくましく生きる内部っ子
楠	「あたたかさ・たくましさ・たしかさ」をもった子どもの育成のための保幼小中一貫した教育

(2) 各中学校区の主な取組

各中学校区の取組を見ると次の2つに大別することができます。

- ①子どもの指導に生かすため、教職員間の面識を広げたり、共通理解を深めたりする取組
 - ②校種間のスムーズな接続や子ども同士の相互理解につながる取組
- 主な取組は、次のとおりです。 ※（ ）の数字は、取り組んだ中学校数

教職員に関すること	児童生徒に関すること
公開授業（20）	行事などの共同活動（13）
情報交換（17）	異校種への訪問による授業参観（9）
課題別のグループ会議（16）	中学生の幼稚園・小学校での職業体験（8）
授業検討会（7）	異校種への訪問による学習発表（6）
異校種への出前授業（7）	幼稚園児の小学校での給食体験（6）
到達度検査結果の分析（5）	小学生の中学校部活動体験（2）

(3) 成果

① 教員にとって

- ・ 各中学校区では、学びの一体化でめざす「確かな学力」と「健やかな成長」を伸長させるため、着実に取組が積み重ねられており、中学校区のテーマの実現に向けて、年々、幼小中の教育活動の連携が強化・充実されています。
- ・ 授業公開等を通して子どもの姿を見ることで、各中学校区の課題が明らかになるとともに、子どもの実態や相互の指導方法等について情報交換することができました。
- ・ 中学校区の教員が互いに顔を知り、交流や意見交換しやすくなりました。
- ・ 年度を追うごとに、各中学校区の課題や今後の方向性を明らかにしたうえでの取組が、着実に実践されるようになってきました。

② 子どもにとって

- ・ 子ども同士の交流によって、互いに親しみがもてるようになりました。

課 題（今後の方向）

- 今後は、次のような視点により具体的な方策を行っていきます。
 - ・ めざす子ども姿や目標など、取組の基本方針を明らかにし、共通理解を図って取り組みます。
 - ・ 研修会等の参加体制確保のために、取組の日程などをあらかじめ調整して年間計画に組み込んでおきます。地域の特性や児童生徒の学びや育ちの連続性を考慮に入れ、校区における学びの一体化のテーマと各学校の研究テーマとの関連付けを図るなど、各中学校区の実状に応じた取組にしていきます。
 - ・ 公開授業の事後研修会の持ち方などを工夫し、一層深まりのあるものにしていきます。
 - ・ 幼稚園・保育園も含めた保幼小中の連携を校区の実状に応じて進め、よりよい連携のあり方についても検討していきます。
 - ・ 学びの一体化推進協議会および教科部会は、教員の研究団体である各教科の教育研究協議会と連携して、効果的な指導や取組について研究を深め、実践例を市内全域に広めます。
 - ・ 本年度に発足した教科部会から、各教科で今後取り組むべき共通課題として、知識や技能の「活用」と、子ども同士の「学び合い」が提言されました。教科部会は、各教科の教育研究協議会の協力を得て、「活用」と「学び合い」を大切にした授業の実践例や指導方法等の紹介を、各中学校区に発信していきます。